
伴侶

VISIA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
伴侶

【コード】
N58430

【作者名】
V I S I A

【あらすじ】
……が食べたい婆さん。

(前書き)

爺さんが死んだ。

婆さんが火葬場で、爺さんが出てくるのを待っていると、子供が何かを歌いながら後ろを通っていった。

……どこかで聞いたような

振り返ると、誰もいなかった。

だが、懐かしい感じがしていた。自分でも、その曲を歌ってみる。

……思い出した。確か、キャンプファイヤーで歌った曲よね。

爺さんは、あの時のように隣にはいない。

婆さんは、涙が止まらなかった。

婆さんは、火葬場から持ち帰った“爺さん粉” 200gの袋を仏壇に置いていた。

ひよつとしたら、爺さんが夜な夜な枕元に立っってくれるかもしれない、と期待をしていたのだ。だが、何日過ぎてもその様な出来事は起きなかった。

ある日、婆さんは天ぷら蕎麦が食べたくなり、朝から準備を始めた。

…久しぶりに蕎麦を打ちましようね。爺さんも食べたいでしょう？

婆さんは、蕎麦粉・小麦粉・野菜などを台所のテーブルに並べていったが、どれも少しずつ足りなかった。

それでも、野菜などは庭の畑で収穫して間に合わせたが、蕎麦粉や小麦粉は、隣町まで1時間も歩いて買いに行くのは大変であった。

…ああ、そうそう。

どこかに代わりの粉があったような気がして、1時間ほど掛けて家中を探してみるが、結局見つける事が出来なかった。

…おかしいわね。

疲れて台所に戻ると、テーブルの上に食材が並んでいた。

……誰よ！こんなに散らかしてっ

冷蔵庫に食材を戻していく途中、テーブルの下に転がっていたカップラーメンを見つけた。

時計を見ると、もうすぐ昼になる所だった。

……あらあら、お腹空いたわね

カップラーメンに手を伸ばして掴んだ後、手元に引き寄せた。

……狐うどん？でも、天ぷら蕎麦が食べたいのよね。

今日の夕食は天ぷら蕎麦が食べたくなり、早速食材の準備を始めた。

1時間後

……粉が足りないわね。

4時間後

……明日の朝食は、
天ぷら蕎麦にしようかしら

(後書き)

婆さんが、再び家の中を探し始めた時、誰かに肩を叩かれた。

振り返ると、死んだ筈の爺さんがニコニコ笑って立っていた。

「…じ、爺さん？」

「婆さんや、今日は“うどん”が食いたいな。」

「えっ？…ああ、カップ麺で良ければありますから、2人で…」

「…そうだね。」

爺さんは、笑顔のまま静かに消えていった。

その夜

婆さんは、仏壇に置いた“うどん”が減っていくのを見ながら久しぶりに夕食を楽しんでいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5843o/>

伴侶

2010年10月30日05時14分発行